

【景気に関するアンケート集計結果の概況】 (2020年9月調査)

昨年同期の調査と比較して、上半期の業績見込みについては、「増収増益」が16ポイント減少の9%に対し、「減収減益」が34ポイント増加の56%と非常に厳しい状況となった。

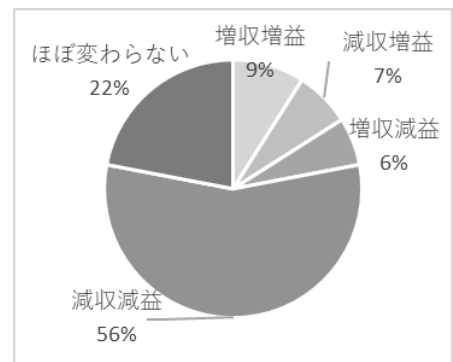
新型コロナウイルス感染症拡大により84%もの企業が「マイナスの影響」を受け、うち44%の企業の上半期売上高は昨年同期比の「79%以下」まで落ち込み、「49%以下」も9%と1割近くあった。

また雇用情勢については、「従業員が不足している」が昨年同期の調査と比較して、24ポイント減少の40%、「過剰である」が10ポイント増加の11%と、依然として人手不足ではあるものの、雇用調整などが懸念される状況となった。

(1). 昨年度上半期と比べた今年度上半期の売上高と営業利益見込みについて

「増収増益」は昨年同期の調査より16ポイント減の9%、「減収増益」は2ポイント増の7%、「増収減益」は5ポイント減の6%、「減収減益」は34ポイント増の56%であり、「ほぼ変わらない」が15ポイント減の22%であった。「増収」は21ポイント減の14%、「減収」は37ポイント増の64%であった。

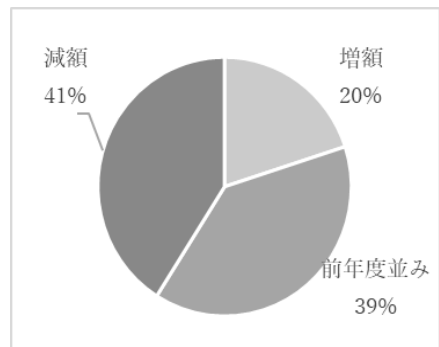
業種別で「減収減益」が1番多いのは「サービス業(38社)」の72%で、2番目が「製造業(食品外)(27社)」の66%であった。



(2). 昨年度と比較した設備投資額について

「増額」は昨年同期の調査より9ポイント減の20%、「前年度並み」は13ポイント減の39%、「減額」は23ポイント増の41%であった。

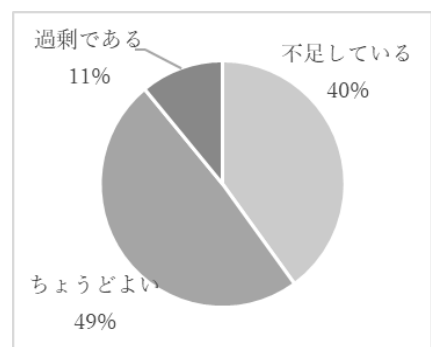
業種別で「増額」が1番多いのは「製造業(食品)(10社)」の25%で、「減額」が1番多いのは「サービス業(29社)」の58%、2番目が「製造業(食品外)業(22社)」の55%であった。



(3). 従業員の過不足感について

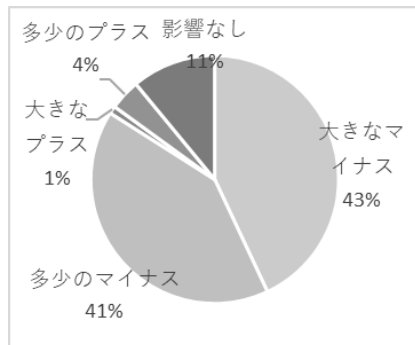
「不足している」と回答した企業は昨年同期調査より24ポイント減の40%、「ちょうどよい」は14ポイント増の49%、「過剰である」は10ポイント増の11%となり、雇用情勢に大きな変化が見られた。

業種別で「不足している」が1番多いのは、「建設・不動産業(48社)」で56%、2番目が「サービス業(19社)」の36%で、「過剰である」が1番多いのは「製造業(食品)(12社)」の29%であった。

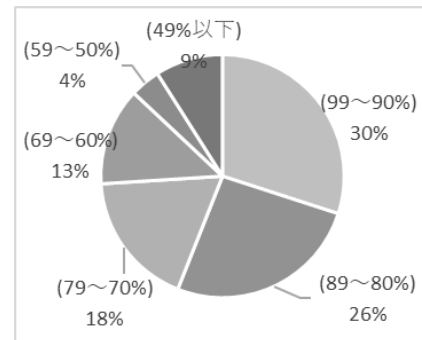


(4). 新型コロナウイルス感染症の影響について

企業活動への影響



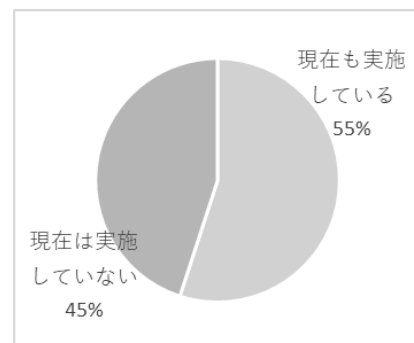
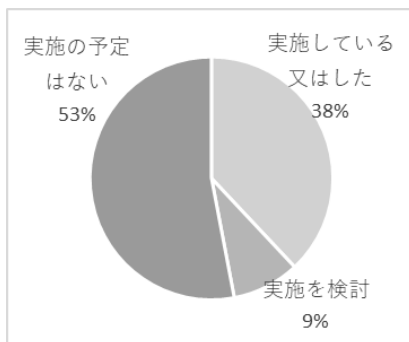
マイナスの影響について上半期売上高は前年同期比どれくらいか



新型コロナウイルス感染症の企業活動への影響は、「大きなマイナス」と「多少のマイナス」の合計が 84%、「大きなプラス」と「多少のプラス」の合計は 5%と、多くの企業にマイナスの影響を及ぼしている状況となった。

規模別では、「マイナス」の影響があったとしたのは、従業員 101 名以上の企業 (109 社) が 87%、100 名以下の企業 (232 社) が 82%であった。

(5). テレワークの実施状況について



「実施している又はした」企業が 38%に対し、「実施の予定はない」が 53%であった。また「実施している又はした」企業で「現在 (2020 年 9 月調査) は実施していない」のは 45%と、半数近くが現在は行っていない結果となった。

規模別では、「実施している又はした」企業が従業員 101 名以上 (110 社) で 53%に対し、100 名以下の企業 (232 社) は 31%と企業規模により大きな差異がでた。

また、「実施の予定がない」とした 1 番の理由は、「仕事の内容が馴染まない」が 51%で、次に「会社にルールが整備されていない」が 12%であった。

注) 会員企業・団体 (1,245 会員) に対し景気に関するアンケート (2020 年 9 月) を実施し、342 会員 (27.5%) より回答を頂きました。